



関係会社との一体感を持った連結経営を目指す三井物産の関係会社の会である「三栄会」。その最新の活動状況を紹介します。その第9回として、文化交流委員会が開催した「写真教室」についてご紹介します。

お問い合わせ先:事業管理部企画室 東京三栄会事務局 ☎7569
eメールアドレス:SaneikaiTKAOI@mitsui.com
東京三栄会ホームページ:http://www.san-eikai.or.jp

文化交流委員会活動の「写真教室」を再開

会員の声を反映させた文化交流活動

一昨年末の総会で組織再編が承認された新たに設立された文化交流委員会では、文化交流を通じて会員各社の横の交流を深めるためのさまざまな活動を行っています。昨年四月には、会員の意向を吸い



初心者にも分かりやすい写真指導がなされました

上げるため、メンバー会社を対象に文化交流に関するアンケートを実施。その結果を受けて、昨秋から「料理」「陶芸」「絵画」「写真」の各教室を企画・運営しています。

今回は、二月十六日、銀座プラントンで再開された「写真教室」について紹介します。講師には「イタリア好き」(ソニーマガジンズ社出版)という本を一月に発行したばかりの、写真も著述も万能的篠利幸氏を迎え、当日は教室が満席となるほどの大盛況となりました。

受講生の目線に合わせた写真指導

写真教室は「ハードよりソフトが重要」「構図」「シャッターチャンス」をテーマに授業が行われました。まずは最初に、往々にして初心者はライカなどの名機を手に入れば良い写真が撮れるとハードを過信しがちだが何を撮りたいかといったソ



篠利幸氏から直接指導を受ける参加者

フトの部分が重要で、その意欲こそが良い写真を撮るうえで必要とあった説明がありました。二つ目に、構図は写真を撮るうえでは重要な要素であり、主体をどこに置るかといった画面構成を考えることよって写真が生きてくるという話がありました。そして三つ目は、良い写真を撮るためにシャッターチャンスを持って撮る写真(受動的)と積極的にシャッターチャンスを作って良い写真(能動的)を撮る方法がある、ということを具体的に広告に使われた写真を題材に説明がなされました。最後に、参加者の皆さんが持参した写真についての講評があり、どこが良いか、悪いかについての説明を

受けました。

多くの会員から初心者にも分かりやすい写真教室を、という声にに応じて再開した写真教室は、初めてカメラを持つ人から使い慣れている人まで、基本を確認でき、また今までのテクニックを検証できるという意味でも、非常に有益なものとなりました。

会員社員の気軽な交流の場

月一回程度のペースで通年開催されているこれらの文化交流活動は、気軽にいつでも参加できこれまで面識のなかった会員社員の連帯感が自然と芽生える良い機会となっています。そしてその活動内容は会員の声に柔軟に対応しながら、ますます活発化しています。

今後も会員各社の皆さんにとって良い交流の場となるような機会(つくり)に努めていきます。

篠利幸氏の作品は左記のWebサイトでご覧頂けます。

<http://blog.tabista.jp/italia/>
(東京三栄会広報委員長)

日本ユニシス(株)/前田記